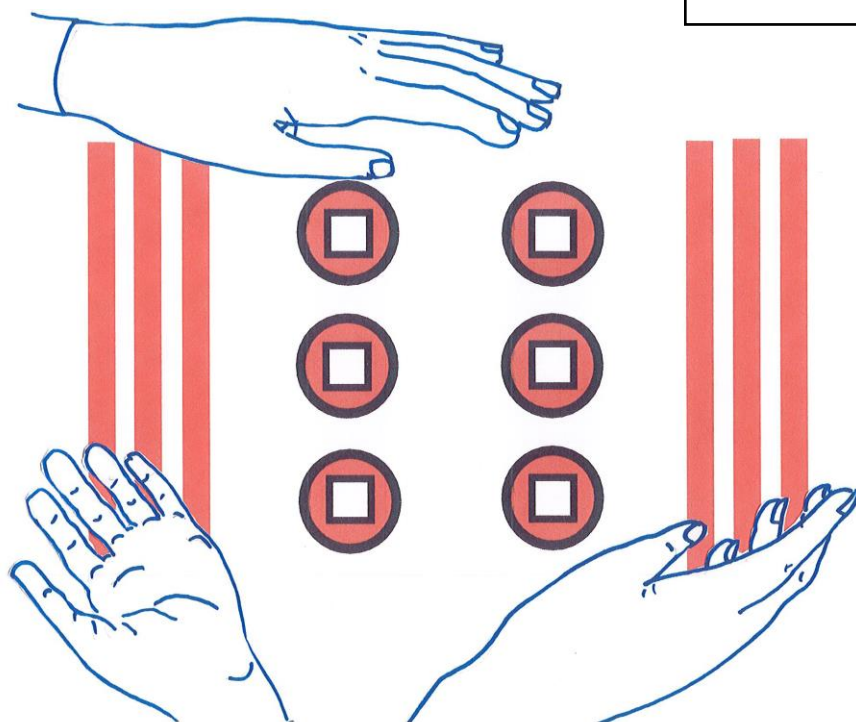


真田図書館サポーターだより 第22号

令和7年5月10日発行



真田図書館サポーターの会会則

第2条 真田図書館でのボランティア活動を通じて図書館を支援し、活動を通じて自らの生涯学習の向上及び人と人との交流を図ることを目的とする。

一年を振り返って

真田図書館サポーターの会 会長 若林雅一

昨年度は、総会が多くの方の参加のもと対面での開催ができました。会員同士それぞれ自由に意見を交換し、熱心に話し合いがなされ、大変心強くありがたく思いました。

各種事業は参加したサポーターの協力によりつつがなく実施されました。特に図書館コンサートでは、コーディネートに秀でた会員の尽力により、中学1年生の小出岳悠さんによるヴァイオリンコンサートが行われ、奏者と会場全体の心が一体となり、次年度の再会を熱望するなどの場面も見られ、記憶に残るコンサートとなりました。

次に喜ばしい報告をお伝えします。昨年11月23日に開催された上田市功労者表彰式で、当サポーターの会が日頃の図書館でのサポート活動や花壇づくりでまちづくり表彰を頂戴しました。これは、サポーターの会の礎を築き上げた渡辺前会長、

小金前業務部会長、中沢前運営部会長、そして行動を共にされた多数の会員の功績であると心から御礼申し上げます。

表彰理由として取り上げられた花壇づくりを更に充実させるため、季節を楽しむことができる花壇づくり考えております。四季を代表する花木、例えば、ナンテン、フクジュソウ、サルビア、菊を植えたいと思います。

コロナ禍で開催できなかった会員懇親会が、12月7日の図書館まつりの後に和気あいあいと楽しくおこなうことができました。

サポーター各位には絶大なる協力に心からの感謝を申し上げます。



図書館前の花壇の美化活動 がんばっています



年に1回の蔵書点検もお手伝いしています



中学生の職場体験もサポート



七夕の飾りつけもしました



おはなし広場に来てください



いろいろありましたがこれからもよろしくお願いします

祝 まちづくり表彰 受賞

真田図書館 次長 菊地 正志

真田図書館サポーターの会は、平成 22 年 4 月 18 日に発足して以来、15 年余りを経ました。このたび、令和 6 年 11 月 23 日に長年の功績を認められ上田市功労者表彰まちづくり表彰を受賞しました。

まちづくり表彰は、市民協働によるまちづくり、地域づくりの推進に尽力したものに對して贈られるものであり、サポーターの会は、真田図書館が快適に利用できる環境づくりのサポートとして、返却本の配架や本の修理、屋外の花壇づくりの活動に取り組みと図書館を通じた地域づくりを推進したという理由で、表彰されました。

活動の積み重ねが図書館を核とした人と人との交流に貢献してきたことの結果が評価されたことは、昨今の住民自治が求められる時代にあって、二人三脚で図書館運営を担ってきた立場からみれば、祝福の念を禁じざるを得ません。より一層の発展と活躍を祈念します。



【まちづくり表彰を囲むサポーターの会役員】

ワクワクをありがとう!!

小林 恵

「今年もライブラリーコンサートありますよー！」
林さんにお誘いしていただき ワクワクのとまらない私。



【小出 岳悠 氏】

今年は若きヴァイオリニスト小出岳悠くん。
愛くるしい表情の岳悠くん。

演奏がスタートすると表情が変わり……。
「素晴らしい！」 「鳥肌が止まらない！」

驚きの連発でした。

音楽、音符の分からない私なのですが
岳悠くんの演奏は サポートをしている、
ご両親 ご家族 深沢先生の全ての愛の
詰まった音！だと感じました。
だからこそ あの素晴らしい！
演奏になるのかな？ と感動しっぱなしで
した。

岳悠くんの演奏で「明日から頑張ろう！頑張れる！」と思え、音楽への興味や憧れが強くなりました。

大変な世の中ですが、心温まる音。岳悠くんの演奏で来館された方々、全ての皆さまが癒されたと思います。

最後になりますが、図書館職員の皆さま
サポーターの皆さま
心より 感謝申し上げます。

今後も「地域の癒しの場」になるように
願っております。

ありがとうございました。



【コンサート終了後 演奏者囲んで】

第14回図書館まつり

本のリサイクル市・スペシャルおはなし広場

○本のリサイクル市（来場者165名）

事前に多くの方に提供をいただいた本のうち、1,310冊程の本をお持ち帰りいただきました。会場は多くの人でにぎわいました。

図書館まつりに先立ち本の提供を受けました

★ 当日は大盛況でした！😊

お帰りのお土産も用意しました



○スペシャルおはなし広場

- ①長野大学 片岡ゼミ 読み聞かせ同好会の皆さん（絵本の読み聞かせ）
- ②上田女子短期大学 池田さん（絵本の読み聞かせ）
- ③舞沢・宮坂・斎藤さん（腹話術ショー）
- ④鳴沢今日子さん（折り紙教室）

会場にたくさんの子供たちの歓声と笑い声が響きました。拍手喝采のうちイベントは終了しました。



長野大学のお姉さん お兄さんによる読み聞かせ
上田女子短大の池田さんも披露してもらいました



腹話術をしてくれた舞沢・宮坂・斎藤さん



やまびこ号も参上



折り紙教室は親子連れに好評でした

『水豊かな真田の郷と民話』

講師：稲垣 勇一 氏(塩田平民話研究所所長)

第1回：8月24日(土)「上田 右岸地域と左岸地域の民話」(16名参加)

第2回：9月28日(土)「水豊かな真田の郷と民話」(21名参加)



【稲垣勇一先生】

わたしの属するおはなし会では、演じるということや紙芝居の制作などを試行錯誤しながら行ってきましたが、民話について考えると、全国各地に同じような話はあるとしても細かく見ていくと違った光景が浮かんでくる、という話を稲垣先生の『横尾の小豆研ぎ』で良くわかりました。そして、ふだんはこの地域に囲われて暮らしていると分かりませんでした。稲垣先生のお話を聞き、この地域の持つ『やさしさ』を感じることができました。囲炉裏を囲み、お爺さんやお婆さんが話をしてくれたことを思い出しながら、上演していけたらいいな、と思いました。

真 田 塾

主催：真田図書館・真田図書館サポーターの会

水豊かな真田の郷と民話

民話には古人(いにしえびと)の
息づかい、あしあと、思いが
織り込まれています
真田の郷の民話にふれてみて
もういちどふるさどを感じてみませんか

西阿山

講 師：稲垣勇一氏(塩田平民話研究所所長)
日 程：第1回 8月24日(土)「上田 右岸地域と左岸地域の民話」
第2回 9月28日(土)「水豊かな真田の郷と白山信仰」
※連続講座ですが個々の受講も可能です
時 間：午後2時～午後4時
場 所：真田図書館多目的ルーム
定 員：先着40名
申込受付：7月23日(火)から電話(72-8080)もしくは
真田図書館(月曜日休館)窓口で
参 加 費：無料

山家神社

真田図書館サポーター 大塚 なお美

『たたら製鉄に必要なものが全て揃う真田傍陽の地』

講師：山辺 邦彦氏 氏(郷土地質研究家)

10月26日(土)(27名参加)

鉄の出現と流布が人類の営みに多大な影響を与えたことは、歴史を俯瞰することができる私たちにとり既知のことですが、その鉄の生産のための信陽鉾山のろう石、実相院の山砂鉄、大倉鉾山の珪石と水晶、美山鉾山のろう石とマンガン鉱と、たたら製鉄が真田傍陽の地で行われていたという話は驚きでした。

真田図書館サポーター 倉島 とよ子

『「源氏物語」だけじゃない 「平安女流文学」』

講師：両角 文秋 氏(信州大学人文学部・
上田高校非常勤講師)

第1回：1月11日(土)

「源氏物語」成立前夜・・・「蜻蛉日記」「枕草紙」

「和泉式部日記」(26名参加)

第2回：2月22日(土)

「源氏物語」その後・・・「紫式部日記」「更科日記」(20名参加)

平安時代中期に菅原道真の建議により遣唐使が廃止され、中国文化の影響が減退する中で、日本固有の文字であるひらがなとカタカナが作り出される大きな変化によって、女性も文字を以前より容易に身につけた結果、日記を著す習慣が女性の間でも瞬く間に広がり、今でも愛読されている書物が多く残された日本の文学史上革命的な流れが起こったことが、講演で詳らかにされました。

講演された両角先生の日本文学に対する深い愛情と考察、日本文化を誇りにしている情熱が伝わってきました。

真田図書館サポーター 林 良

真田塾
「源氏物語」だけじゃない
「平安女流文学」

紫式部や清少納言だけでは語れない
平安女流文学を読んでみませんか

講師 両角 文秋
(信州大学人文学部・上田高校非常勤講師)

日時 第1回 令和7年1月11日(土)14:00～16:00
「源氏物語」成立前夜・・・「蜻蛉日記」「枕草紙」
「和泉式部日記」
第2回 令和7年2月22日(土)14:00～16:00
「源氏物語」その後・・・「紫式部日記」「更科日記」

場所 真田図書館多目的ルーム

定員 先着40名

参加費 無料

申込み 12月4日(水)から
電話もしくは
真田図書館窓口で(月曜休館)
TEL 0268-72-8080



【両角文秋先生(前列中央)】



【山辺邦彦先生】

おはなし広場に行ってみよう！

真田図書館サポーターの会 内田 元子（民話の会）

私達「民話の会」は公民館図書室の頃から絵本の読み聞かせをしています。数年が過ぎ、会員の環境の変化に伴い平成5年頃より真田町の民話を集めて本にしたら？ということになり、様々な資料やお年寄りから聞いた話を集めました。なるべくそのまま書くよう努力しましたが、内容をふくらませたり創作を加えたりもしました。さし絵も描きたい人が担当し意見を出し合い皆で支え合って、平成8年「さなだの民話」を発刊することができました。



おはなし広場でも子供達に伝えて行きたいという願いもあり、参加者の年令や季節に応じた内容を選んで民話の読み聞かせをしています。

今回は大型絵本の「ともだちや」と「すてきな三人組」、さなだの民話から

「ピピンピヨどりの話」などを読みました。

一組の親子が10時頃から待っていて開始時のお客様は2組の親子で始まりました。そのうち徐々に増えてきて、途中手あそび等で体を動かしにぎやかになっていきました。大型絵本は一冊の予定でしたが子供達からのリクエストで用意していたもう一冊も読むことになり、喜んでくれたようです。帰り際に、「さなだの民話の本を借りていきます」と声かけていただきとてもうれしかったです。

興味がある方、楽しいおはなしの時間にどうぞお出かけください。



真田図書館『本の修理保存講座』に参加して

真田中学校 学校図書館司書 宮沢 直子

2月1日(土)『本の修理保存講座』に参加させていただきました。

学校図書館で仕事をするようになって10年以上経ちますが、初心に戻って『図書の修理保存講座』を受け、とても有意義な時間を過ごすことができました。

糊による補修個所の保護のためのクッキングシートを使うことや、消しゴムをおろし金で使うということを聞いて、普段何気なく使っているキッチン用品にこんな使い方があるのか!と改めて気づかされました。確かにクッキングシートを使えば、ページどうしが貼りつくことなく、きれいに

修理できるので、活用していきたいと思います。その他にも、濡れてしまった本や匂いについてしまった本を真田図書館ではどうしているのか聞くことができ、とても勉強になりました。

いい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



新しい『やまびこ号』をよろしくお願いします

真田図書館 図書館司書 丸山 友希

令和7年3月4日、前日に降った雪が残るなか、新しくなった移動図書館車「やまびこ号」に乗って、本原・長地区を巡回しました。移動図書館車とは、図書館から遠い地域にお住まいの方や、図書館を来館利用できない方のために、本を積んで各地を回る巡回車のことです。



真田地域では「やまびこ号」が毎月第1火曜日に本原・長・菅平コース(※)と、第3火曜日に本原・傍陽コースを巡回しています。

新しい「やまびこ号」の大きく変わった点は、車のデザインです。明るい色調で描かれたかわいらしいイラストは、上田高等学校と上田千曲高等学校の美術班および上田西高等学校の美術部の皆さまが手

掛けてくれました。さっそく「やまびこ号」を利用した方から、「きれいになったね!」とのお声をいただきました。

真田地域は真田図書館の館員が乗務しておりますので、お見かけの際は手を振ってみてください。

※菅平は、12月～3月の冬季期間、運行を休止しています。

図 書 館 と 私

山田 茂子

私にとって図書館は生活の一部、なくてはならない場所です。週末には図書館に出掛け、新聞や雑誌を読み、読む本を探し、書き物をし、多くのことをしています。真田図書館はとても良い図書館です。明るく広々とした館内で、指定された新聞や雑誌を読める決められた場所があり読書やパソコンや書き物ができるスペースも確保されていて、目的に合わせた利用ができ、重宝しています。このため、お休みの週には少し気持も沈んでしまいます。

図書館での一番の目的は本との出会い、ですが、分類された書棚での本を探すことはもちろんですが、新刊コーナーや返却本の書棚での本との出会いは、捨てがたい私の楽しみになっています。図書館利用の他の方が自分にはない分野を私にお示しているかのようで、広い知識の世界との遭遇ができることも、喜びとなっています。

真田図書館では、催しも多彩で、図書館まつりやコンサートやお話し広場や真田塾などなど、単なる本の活字との出会いばかりではなく、多様な素晴らしい出会いの場が用意されていて、スゴイ！と感じ入っております。職員の皆さんやサポーターの方々、お話し広場の皆さんや、多くの方々がこの図書館を支えて下さっているおかげで・・・私の大好きな大切な場になっているのだ・・・と感謝の思いでいっぱいです。



最後に私の経験した、本との愉快なる出会いを書かせていただきます。

一昨年夏の頃に北アルプスの最奥部の山々に通じる伊藤新道が再び開かれたことが話題となり、最初に道を開いた人物が長野県人の「伊藤正一」さんという方で、その存在が新聞やテレビで取り上げられ、執筆された「黒部の山賊 アルプスの怪」いう本も紹介されました。

この頃、私は、北アルプスの最奥部の山々に登っており、鹿児島出身の女性と知り合いになりました。この女性は長野県から遠く離れた最南端の地の人でありながら、山道のこと本の内容も詳しく知っていました。また女優の「小林綾子」さんが出演した山のテレビ番組では、この方もこの本の愛読者で、山旅にも本を携帯しているとの話がありました。

私は山好きでかつ生粋の長野県人でありながらこの道の存在や本も全く知らず、遅まきながら、「私もこの本を読まねば——」と強く思い「少しマイナーな本だからあるかしら？」などと、心の奥で思いながら、真田図書館に向いました。職員さんにお話しすると・・・いともたやすくこの本を持って来て下さいました。「図書館ってスゴイ！！」と私は何度も心の中で叫びました。感謝しながら、かつ己を恥入りながら本を読ませていただき、深い感銘と更なる喜びを噛み締めました。

本は心のパラダイス

真田図書館サポーター 林 良

小学生の頃は【シートン動物記】と【ファーブル昆虫記】ばかり学校の図書館から借り毎晩繰り返し読んでできました。本の裏表紙にある図書カードの貸し出し録はすべてが私の名前でいっぱいでした。

それでも図書館の先生は嫌な顔一つ見せずいつも笑顔で貸してくれたことを今でも覚えています。

あれから50年以上たったある日、
なんとなく手に取った【唐人さんがやってくる】（著者：植松三十里）の本を見つけ本屋さんで購入しました。でもその本は書棚に一年以上ほったらかしにされておりその存在もほとんど覚えていませんでした。



しかし、ある夜“そうだあの本読んでみるか”と思い（重い？）腰を上げてベッドの上で読み始めました。何ページが読んだところで思わず“すげー！”と独り言をあげてしまいました。

“めっけ”という表現が一番的確だと思うのですが、読み進めてゆくと自分が【花のお江戸】のど真ん中に放り出されたような気持になりました。毎晩毎晩私は本棚から

その本を取り出し続きを読むのがしばらくの間日課となりました。



本は心のパラダイスだと思います。残された人生、本を通してどんな人と出会い、どんな感動と共有できるのか楽しみです。 本も大好きもちろん図書館も！



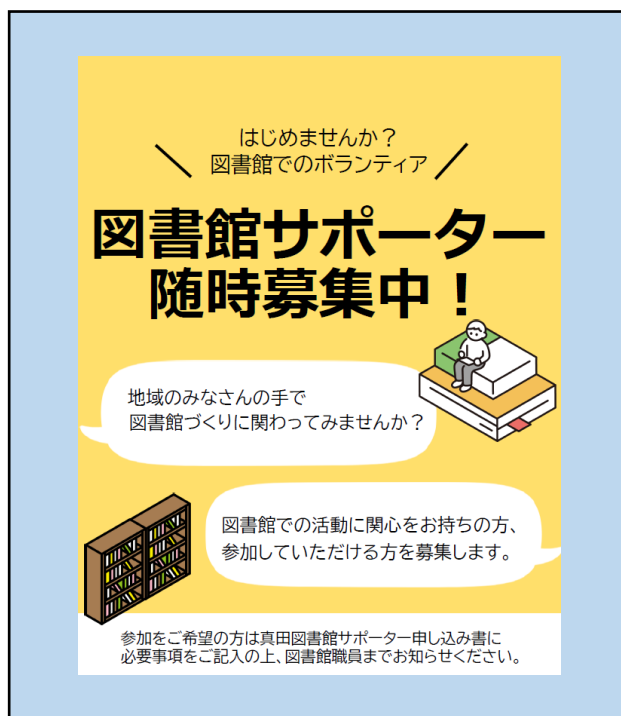
今春 1 人の方が真田図書館を去りました ありがとうございました



増田さんはとても朗らかで、周囲は笑顔が絶えませんでした
情報機器にも精通していて、真田図書館には『図書印帳』をはじめ増田さんが作成したものがたくさんあります
また、私たちサポーターの会のために、会員募集のチラシを作成してもらいました



【図 書 印 帳】



【サポーター募集チラシ】



今春 2 人の方が 着任されました

右から
福島美奈子さん 竹内大翔さん です
よろしくお願いします

真田図書館サポーター 内田 元子